

環境経営レポート

-2023 年度-



活動期間

2023 年 9 月～2024 年 8 月

矢野紙器株式会社



作成日：2024 年 10 月 17 日

目 次

1. 環境経営方針	P－3
2. 事業の概要	P－4
3. 認証・登録の対象組織・活動	P－4
4. 主な環境負荷の実績	P－4
5. 環境経営目標とその実績	P－5
6. 当社の事業内容と SDGs	P－6
7. 製品への環境配慮について	P－6
8. 環境経営計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容	P－7
9. 環境経営組織図	P－12
10. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	P－13
11. 代表者による全体の評価、見直しと指示	P－14

環境経営方針

<基本理念>

矢野紙器株式会社はダンボール加工業を通じ、人が育つ社会環境作りを使命とし取り組んでいます。また、製品の品質維持向上、業務の効率化に加え、ダンボールの特徴「リサイクルできる素材」を生かした製品作りを通じ、地球環境に配慮した事業活動をしております。これらの活動を継続し、次世代へ続く豊かな環境保持を目指し、この活動を進めることでより豊かな人材が育つと信じ、全社員が参加して環境活動の継続的改善を推進してまいります。

1. 環境関連規制や当社が約束したことの厳守
2. 二酸化炭素排出量の削減
3. 廃棄物排出量の削減及び適正管理
4. 資源のリサイクルや節水の推進
5. 化学物質使用の適正使用及び適正管理
6. 環境に配慮した製品の開発・販売
7. 環境経営方針の全社員周知及び、理解と意識向上を図る

制定日:2014 年 6 月 16 日

改定日:2022 年 1 月 17 日

代表取締役社長 矢野 孝

□事業の概要

- ①名 称 : 矢野紙器株式会社
②所在地 : 〒543-0053 大阪市天王寺区北河堀町 8-18
③代表者 : 代表取締役社長 矢野 孝
④環境管理責任者及び担当者連絡先
環境管理責任者 矢野 暁斗 06-6771-8264
副担当者 小濱 貢二
⑤事業内容 : ダンボール製品の製造・販売、ダンボール製遊具のレンタル、就労移行支援事業
⑥事業規模 : 売上高 9,300 万円

	ビル 1～4F	工場
従業員	7 名	5 名
延べ床面積	280 m ²	300 m ²

- ⑦事業年度 : 2023 年 9 月～2024 年 8 月

□認証・登録の対象組織・活動

- 登録事業所名 : 矢野紙器株式会社
対象事業所 : 本社(ビル 1F～4F、工場)
対象外 : なし
事業内容 : ダンボール製品の製造・販売、ダンボール製遊具のレンタル、就労移行支援事業

□主な環境負荷の実績

項 目		単位	2022 年度	2023 年度
二酸化炭素総排出量		kg-CO ₂	34,638	33,526
廃棄物排出量	一般廃棄物排出量	kg	549.08	773.20
	産業廃棄物排出量	kg	227.5	0.00
水使用量		m ³	405.00	332.00

※電力の二酸化炭素排出換算値:関西電力 2020 年度 CO₂調整後排出係数=0.351 kg-CO₂/kWh

□環境目標とその実績

年度 項目		基準値	2023 年度		2024	2025
		2022 年度	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
CO ₂ 排出原単位合計 (kg-CO ₂ /100 万円) (CO ₂ 排出量/売上高)	原単位	382.91	375.25	360.50	371.42	367.59
	削減達成率		-2.0%	-5.85%	-3.0%	-4.0%
一般廃棄物の削減 (kg/100 万円)	原単位	5.53	5.26	8.31	5.20	5.14
	削減達成率		-5.0%	50.27%	-6.0%	-7.0%
産業廃棄物の削減 (kg)	総量	430.34	408.82	0	404.52	400.22
	削減達成率		-5.0%	-%	-6.0%	-7.0%
化学物質の削減 ※1 (kg/100 万円)	原単位	2.21	2.17	4.78	2.14	2.12
	削減達成率		-2.0%	116.29%	-3.0%	-4.0%
水使用量 (m ³ /100 万円)	原単位	4.48	4.39	3.57	4.34	4.30
	削減達成率		-2.0%	-20.31%	-3.0%	-4.0%
環境に配慮した製品の販売 (千円)	売上高	42.90	85.80	33.80	107.25	128.70
	増加達成率		200%	-21.21%	250%	300%

※ 基準値と各年度目標原単位計算で使用した売上高 9,046 万円/2022 年度

※ 2022 年度売上高 9,046 万円。年度実績原単位は 2023 年売上高で算出

※ 原単位は売上額 100 万円に対する CO₂排出量で算出(kg-CO₂/100 万円)

※ 「産業廃棄物」と「製品への環境配慮」の 2 項目は総排出量及び売上高で管理

※ 一般廃棄物・環境に配慮した製品:基準年 2021 年とする

※1 化学物質名:酢酸ビニル、キシレン、エチルベンゼンの 3 種

□当社の事業内容とSDGs

当社の事業活動はSDGsの取組に合致、事業内容ごとのSDGs取り組みを記載。

1)ダンボール製遊具・什器・オブジェ等のレンタル

【説明】レンタル化により、製造した製品を何度も使用できる体制を作り上げました。レンタル中に破損があればその部分だけを差し替えレンタルをすることで資源の節約などを達成している。



2)就労移行支援事業

【説明】30年以上、障がい者支援を継続活動中。現在は障がい者雇用と障がい者を就職させるための就労移行支援事業を15年続けている。働きたい、自立した生活をしたいという想いを叶える活動である。



□製品への環境配慮についての説明

「一度使用すれば廃棄」という段ボールでなく、繰り返し使用できる製品のこと。又は、プラに変わる製品の開発製造のこと。

繰り返し使用で段ボール紙の使用量削減や加工で機械を動かす電気使用量の削減ができるということで、商品(段ボール)のレンタル化に注力する。

段ボール紙を製造には水や電気を使用、副産物として紙スラグも発生する。これらを削減することも環境活動の一環である。

段ボールケースのレンタルは難しいが、段ボール遊具・オブジェや看板などは繰り返し使用することに着目しレンタル利用をすすめている。

レンタル後は当社へ商品が戻ってくるのでメンテナンスで不具合部分のみ差し替えし、一つの商品を長く使用することができるようになる。また、レンタルで考えるようになり、配送する際の大きさや組立易さなどの改良も進めている。

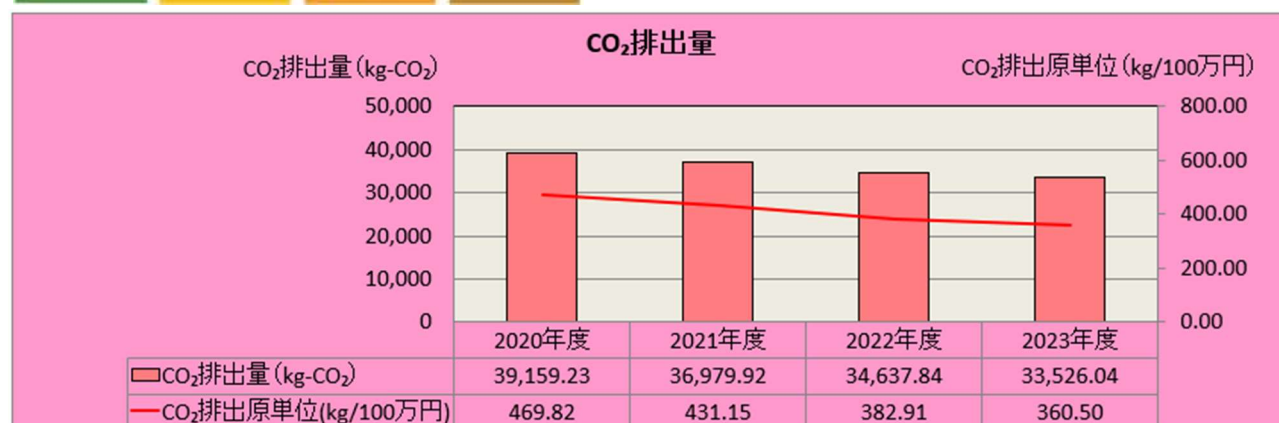
もう1点のプラに変わる製品は『廃プラ問題(海洋プラスチック汚染など)』も世界規模で叫ばれており、当社の生業である段ボール製造を生かしプラ素材に変わる製品の開発を進め、地球環境に貢献できる活動を行っている。



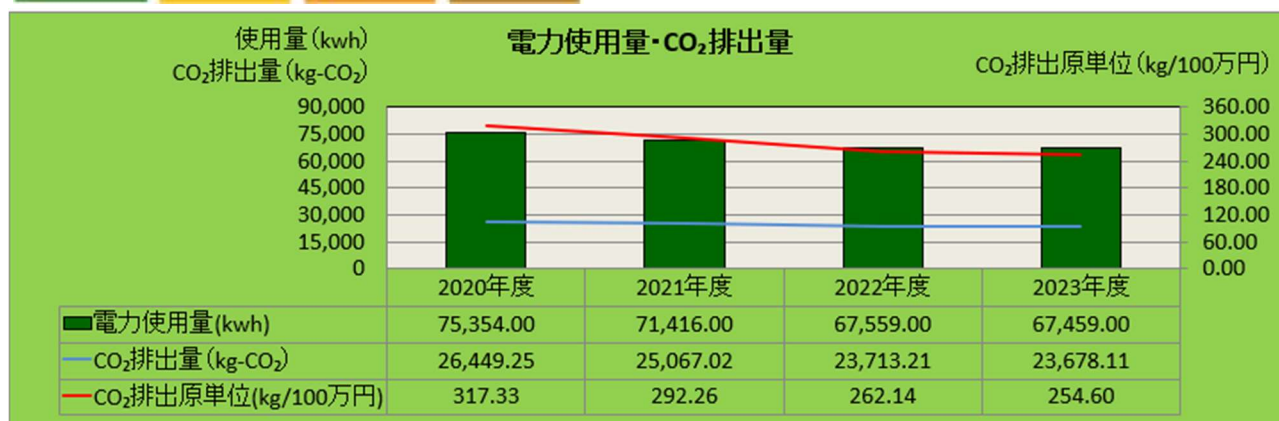
□環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取り組み内容

※結果の判定は、「○」=達成又は良好、「△」=達成には至らないが許容「×」=未達成の三段階にて表示

取り組み計画		達成状況	次年度	評価(結果と次年度の取り組み)		
二酸化炭素(CO ₂)削減 ※電気・ガス・ガソリン使用で発生する CO ₂ の合計削減数値						
削減値目標	375.25kg-CO ₂ /100 万円	結果	360.50kg-CO ₂ /100 万円	達成状況	○	
結果内容	エネルギー3 種合計の原単位目標に対し、達成率 104.09%で達成					

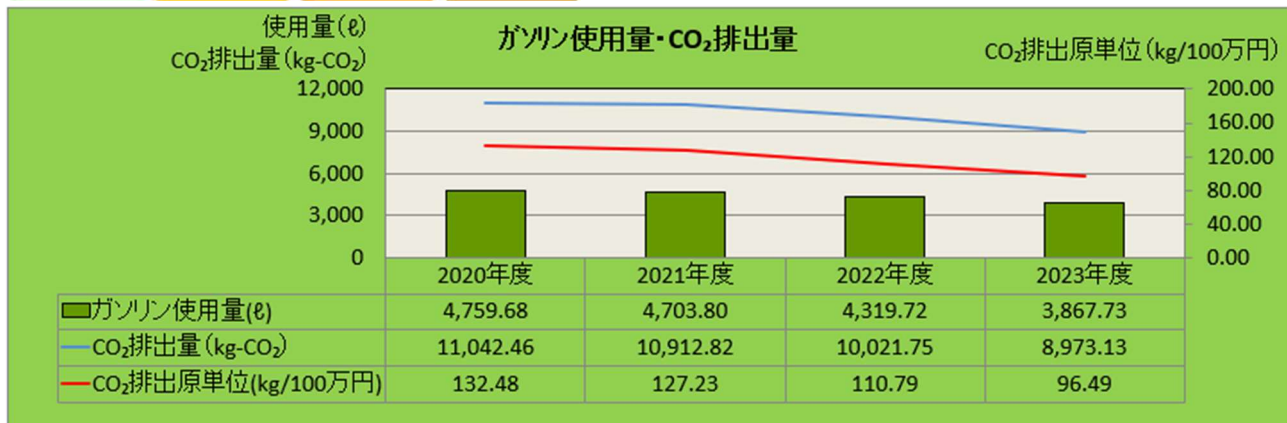


電力の二酸化炭素削減					
原単位目標	256.90kg-CO ₂ /100万円	結果	254.60kg-CO ₂ /100万円	達成状況	○
・不要な照明のこまめな消灯	△	継続	電力の原単位目標達成率は 108.00%で達成。生産製造、外注生産へ切替えが大きく影響。去年に続き猛暑の影響で夏場の電力消費が高めに推移する。		
・空調の適温化(冷房28℃暖房20℃)徹底	△	強化			
・外注製造、自社製造の区分け	○	継続			



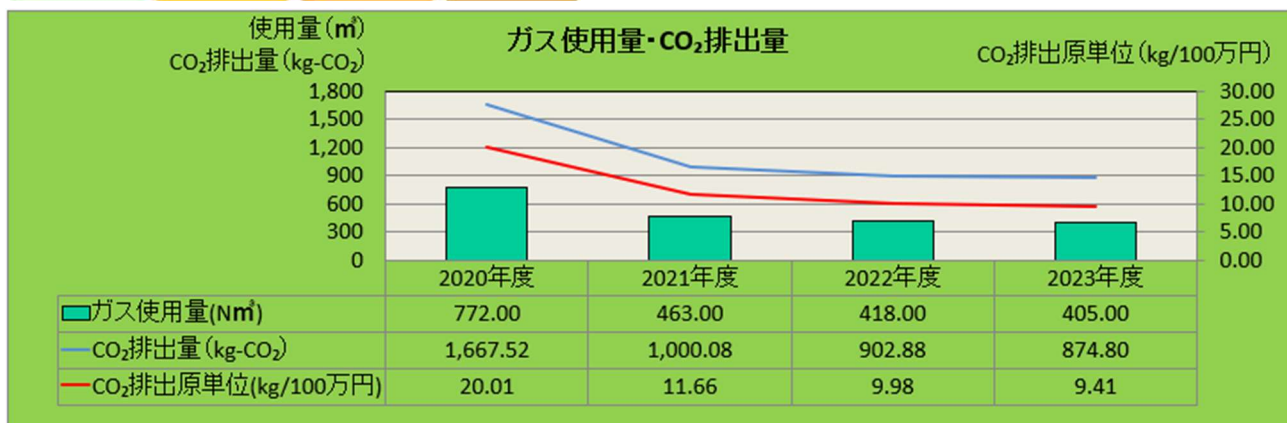
自動車燃料の二酸化炭素削減

原単位目標	108.57kg-CO ₂ /100 万円	結果	96.49kg-CO ₂ /100 万円	達成状況	○
・エコドライブの推進		○	継続	自動車燃料の原単位目標達成率は 112.53%で達成。近距離運送の顧客獲得を進め、配送距離の短縮を目指す。次年度より外注生産➡直送納品を増やし、さらなる CO ₂ 削減を進める。	
・配送ルート効率化		○	継続		
・積載量による車両の変更		○	継続		



都市ガスの削減

原単位目標	9.78kg-CO ₂ /100 万円	結果	9.41kg-CO ₂ /100 万円	達成状況	○
・湯の出っぱなしによる洗いを減らす		△	継続	都市ガスの原単位目標達成率は 103.99%で達成。掲示や口頭による注意喚起は継続。外注生産を増やすことで部品の洗浄等が減少、継続させる。	
・掲示による無駄な使用の注意喚起		○	継続		



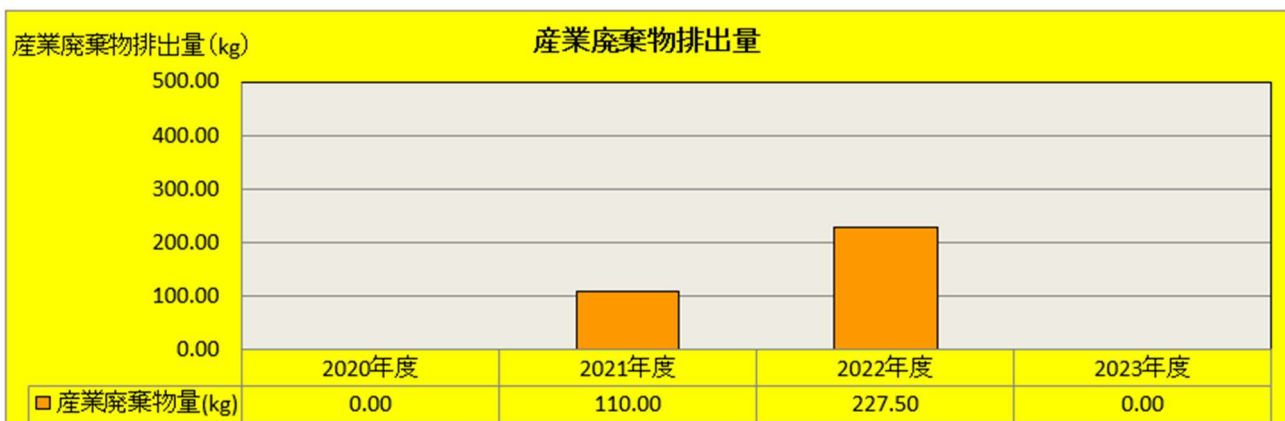
一般廃棄物の削減

削減目標(原単位 5.26kg/100 万円)	×	実績 8.31kg/100 万円。達成率 87.5%で未達	
・使い捨て製品の購入を抑制	△	継続	一般廃棄物の原単位目標達成率は 63.21%で未達。 EC サイトからの注文、軽作業で発生する養生材が削減し辛い。再度廃棄する養生材等持ち帰りできないかの交渉を進める。
・紙のリサイクル化・裏面利用	△	継続	
・梱包材の再利用及び削減依頼	×	強化	

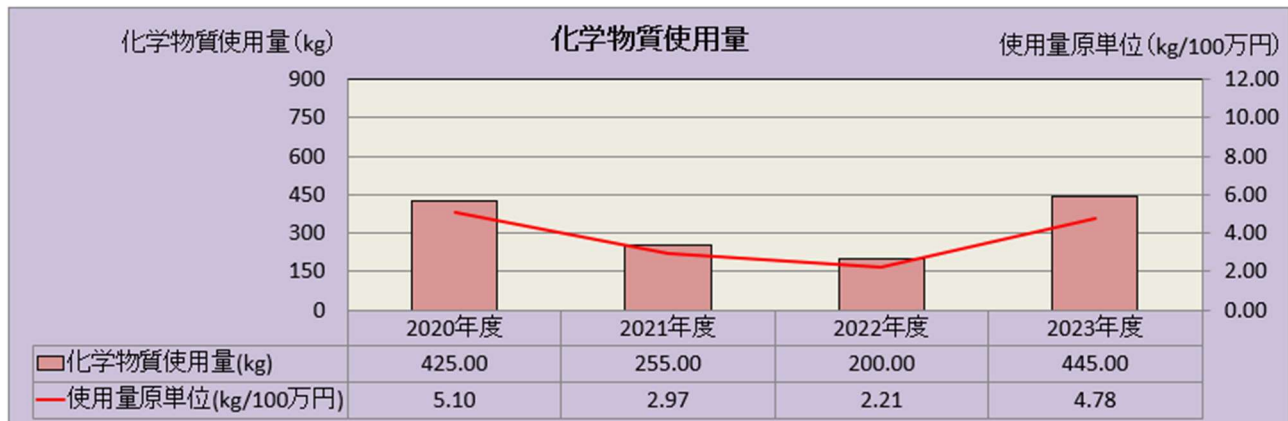


産業廃棄物の削減

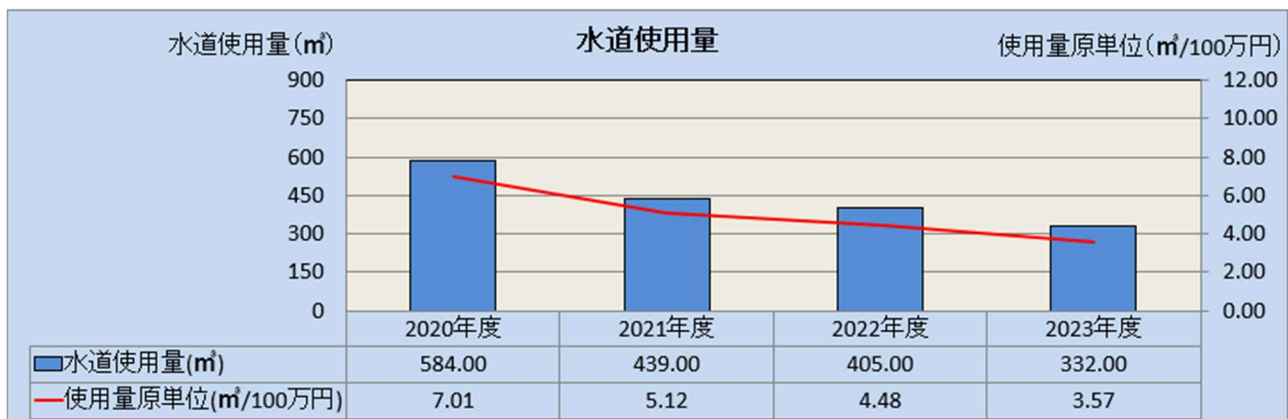
削減目標(総量 408.82kg)	○	総量目標に対し、0kg で達成	
・産廃の流入抑制	○	継続	産廃となるゴミの納品時持ち込み削減と、品質管理 (特にインクを使用する印刷) を徹底し不良品、クレームの発生を抑える。
・不良品の抑制、クレームを抑える	○	継続	



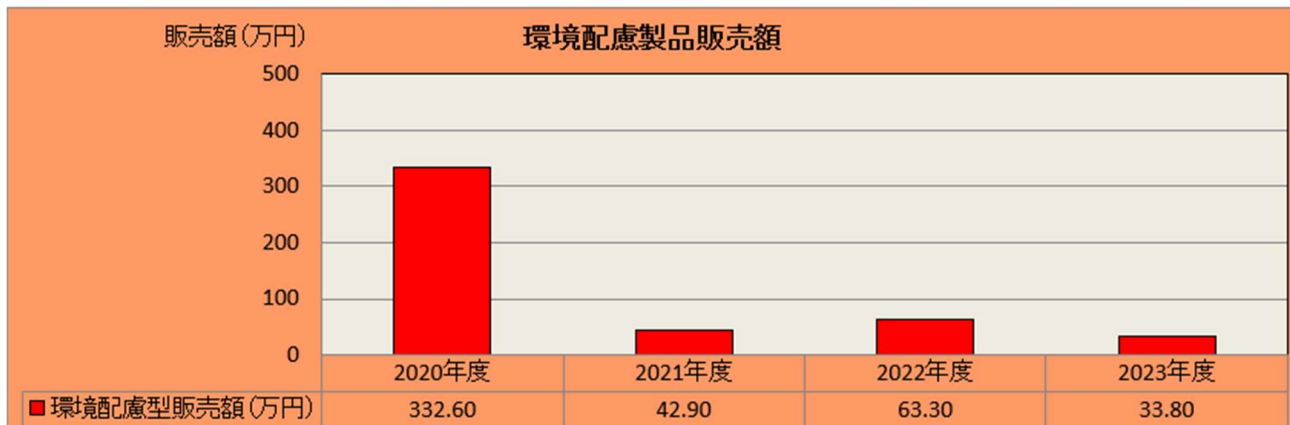
化学物質の使用量削減			
削減目標(原単位 2.17kg/100 万円)	○	実績 4.78kg/100 万円。達成率 116.29%で未達	
・ボンドロス(こぼれ)の改善	○	継続	化学物質の原単位目標達成率は 116.29%で未達。ただボンド購入時期が今年度購入に回っただけなので問題は無し。引き続きロスなどを出さないように注意する。
・印刷時のインク量適正管理	○	継続	
・不良品の抑制、クレームを抑える	○	継続	



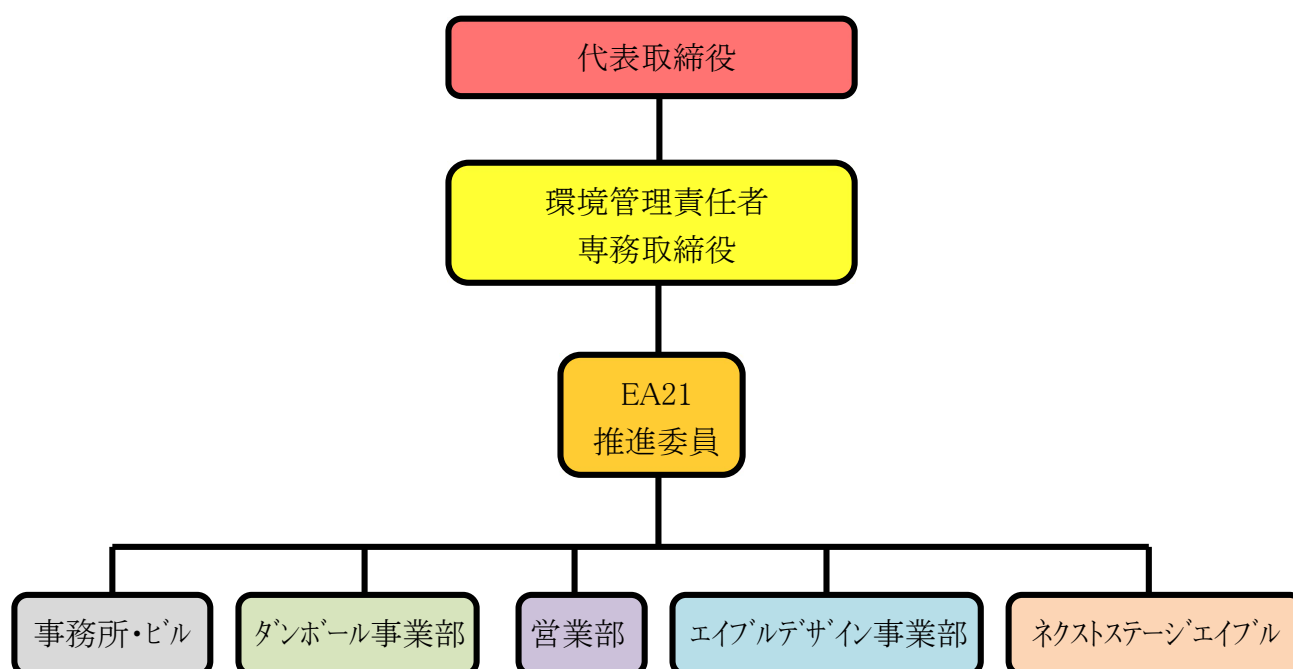
水使用量の削減			
削減目標(原単位 4.39 m³/100 万円)	○	実績 3.57 m³/100 万円。達成率-20.31%で達成	
・洗浄時の水の出しっぱなしの削減	○	継続	水道の原単位目標達成率は-20.31%で達成。ちょろちょろの水漏れが発生。引き続き蛇口を締めることと出しっぱなしを減らすようにする。
・蛇口をきっちり締める	△	強化	



環境に配慮した製品の販売			
売上目標(総売上 85.80 万円)	×	売上目標に対し、33.80 万円で未達	
・レンタル品及び遊具類の販売増加	×	強化	外注をうまく利用し、開発に携わる時間を増やしていく。開発の中で設計の簡素化などを見出す体制を作る。
・使用回数向上の改良と組立の簡素化	×	継続	
・環境配慮型製品の開発	×	強化	



1) 環境経営組織図



2) 役割責任及び権限

役割(職位)	責任及び権限
代表者	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な資源の確保 ・環境管理責任者を任命 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施
環境管理責任者	・環境経営システムの構築・管理・実施 ・環境関連法規等の取りまとめ表を確認 ・環境目標・環境経営計画書を確認 ・環境経営の実施記録を代表者へ報告 ・架橋経営レポートの作成・公表 ・環境負荷の自己チェックの実施 ・環境目標・環境経営計画書原案の作成 ・環境経営の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営計画の審議 ・環境経営実績の確認・評価

(EA21 推進委員)各部門長	・環境経営の現場への徹底 ・自部門における環境方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見・是正・予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決まりごとを守り、自主的・積極的に環境経営へ参加

□法的義務を受ける主な環境関連法規は次の通りである

- ・当社の事業活動において法的義務を受ける環境関連法規は下記の通りです。
- ・環境関連法規の違反はありません。また、関係機関などからの違反や苦情等の指摘は過去３年間ありません。また利害関係者からの訴訟もありませんでした。

適用される法規制	要求される事項(施設・物質・事業活動等)	遵守状況
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物(廃油、廃プラ) 特別管理産業廃棄物(廃水銀灯)	○
騒音規制法	空圧(エアコンプレッサー)、プリントスロッター	○
振動規制法	空圧(エアコンプレッサー)、プリントスロッター	○
化管法	SDS(安全データシート)の掲示	○
フロン排出抑制法	業務用エアコンやショーケース、大型冷蔵(凍)庫	○
消防法	消火器の点検、消防設備点検	○
家電リサイクル法	エアコン、テレビ、洗濯機、冷蔵庫の処分時	○
資源有効活用促進法	段ボール紙のリサイクル、リサイクルマーク表示	○

□代表者による全体の評価、見直しと指示

【環境経営方針】

環境方針は現行のまま変更せず進めますが、目標項目としては環境配慮製品の開発と販売は削除します。環境経営方針として残すことで継続した活動は今まで通り行います。また定期的に振り返りを行い社会情勢や達成状況を見極めつつ継続的に改善してまいります。

【環境経営目標・環境経営計画】

一般廃棄物は基準年の変更を行います。

【実施体制】

実施体制は現行のまま変更せず進めますが、定期的に振り返りを行い社内環境や達成状況を見極めつつ継続的に改善し、変更の必要性があれば都度体制を整えてまいります。

【総括】

2023 年は 2022 年より売上が 3%ほど上がりましたが、CO₂排出量、水道使用量は目標を達成しました。反面、一般廃棄物排出量、化学物質使用量は目標未達に終わっております。産業廃棄物の排出はありませんでした。通常の製造にかかわる項目は削減できております。一般廃棄物削減の未達は EC サイトからの受注が増加と軽作業増加による養生材等の排出が増えたものです。EC サイトからの受注製品は製造が複雑化、使用する部材が増えてしまい養生材も比例して増え一般廃棄物の増加となっております。

また一般廃棄物削減目標の基準が 2021 年とコロナ禍の期間であり、軽作業の量も当時と比べ増えておりますので基準値を変更し、情勢に合わせた基準値で 2024 年度は活動していきます。

環境配慮製品の開発、販売は目標項目より削除します。ただ目標から削除するのみで活動は引き続き目標目的を持って推し進めていきます。

次年度以降も外注自社の製造範囲の住み分けを行い、売り上げを伸ばしつつ、各項目を達成できるよう経営をしてまいります。

2024 年 9 月 26 日
矢野 孝